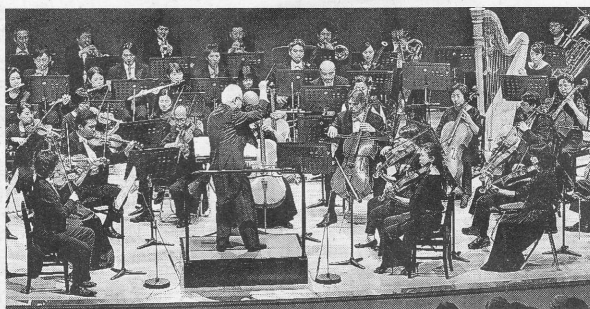


# 広響 糺場作品を初演

## 「広島」題材 平和へ祈り



秋山和慶の指揮で、ヒロシマをテーマにした糺場富美子の新曲を奏でた広響

広島交響楽団の演奏会

「秋山和慶のデイスカバリ  
ー・シリーズ」が27日、広

島市中区のアステールプラ  
ザであった。「音楽の街を

訪ねて」と題した企画の最  
終回は「広島」がテーマ。

広響の委嘱で、広島市出身  
の作曲家糺場富美子が被爆

70年に合わせて作曲した  
「摂氏4000度からの未

来」を初演した。

糺場のトークの後、古里  
へのエールを込めた新曲を

秋山の指揮で奏でた。前半  
は原爆の熱風や焦土と化し  
た街、人々の憤りや悲しみ

を表現。その最後に風鈴が

清らかに響いた。後半は復  
興に向けて活気づく街や平

和の祈りを感じさせる安ら  
かな音色で会場を包んだ。

続いて、広島市民交響楽  
団時代の第1回定演(19

64年)で披露し、節目で届  
けてきたベートーベンの交

響曲第5番「運命」。約95

0人の観客が苦難を乗り越  
える力強い曲調と街の歩み  
を重ね合わせた。中国新聞

社など主催。(余村泰樹)